

“陶の里” 市之倉町を巡ろう

日本最大の盃の生産地・市之倉町

江戸時代、盆地という土地柄上、限られた資源のなかでしか美濃焼を生産することができなかったことから、職人たちは少ない資源でたくさんの数の生産できる「盃」に文化を生んだそうです。現在では、「幸兵衛窯」をはじめ、50以上もの窯元が集まり、“陶の里”と呼ばれている。作陶体験ができる窯元が多く点在し、土や器に触れる楽しさを満喫できるエリアです。

アクセス：(電車) JR中央本線「多治見駅」下車 バス(約20分)

(自動車) 中央自動車道「多治見IC」下車 R248(市之倉・瀬戸方面へ):(約20分)

市之倉八幡神社

日本で初めての陶板の天井。人間国宝の故加藤卓男氏や鈴木藏氏をはじめ、地元陶芸作家や企業が絵付けした作品80枚が、格子状に並べられています。



市之倉おりべ砂防ダム

オリベイズムを取り入れた外観と、陶磁器展示ブースが設けられたこの土地ならではの砂防ダム。展示ブースには国際陶磁器フェスティバル出店作品が展示されています。



市之倉オリベストリート

こだわりの器を見つけたり、やきものをつくっている様子を見学したり、新しい美濃焼の魅力に出会えるストリートです。4月と10月には、町をあげての陶器まつりが開催されます。

幸兵衛窯 1804年(文化初年)開窯。江戸城本丸、西御丸へ染付食器を納める御用窯となり、その後、幅広い技法を駆使した名品の数々を生み出しました。六代目である故加藤卓男氏は1995年人間国宝に認定。現当主、加藤卓男氏の長男七代加藤幸兵衛氏は、独自の現代的な感覚を取り入れたペルシャ陶器を制作し、活躍されています。



市之倉さかづき美術館

白壁に瓦屋根という伝統的な蔵造りの家屋をイメージした外観の「市之倉さかづき美術館」は盃をテーマとした美術館で、平成14年4月にオープン。館内には、市之倉の名工を始め、地元出身の人間国宝・巨匠の作品などが展示されています。

